

AP NEWS LETTER

立正大学 AP (大学教育再生加速プログラム) だより

立正大学では地球環境科学部をモデルとして、学生の主体性を育むアクティブ・ラーニングを積極的に取り入れています。

このニュースレターでは、立正大学における文部科学省AP (大学教育再生加速プログラム) 事業の取り組み内容を紹介しています。

発行日 平成29年2月1日

URL <http://www.ris.ac.jp/ap/>

vol. 03

- 1 アクティブ・ラーニングの全学展開に向けて
- 2 平成27年度立正大学AP事業年次報告会・基調講演
- 3 平成27年度第2回・第3回AP研修会報告
- 4 事前学習と一体化したグループワーク授業の実践
- 5 フィリピンでの予習用動画撮影と教材の購入
- 6 アクティブ・ラーニングとしての展示活動
- 7 AP学生研究プロジェクトの概要
- 8 アクティブ・ラーニング教室の整備
- 9 ICT教育研究Labの整備

1 アクティブ・ラーニングの全学展開に向けて

立正大学長 齊藤 昇



平成26年に採択された大学教育再生加速プログラム (Acceleration Program for University Education Rebuilding: AP) も今年度で3年目を迎えました。これまで多くの教職員の皆様方のご努力により、タブレットや動画コンテンツ、リアル教材などの様々なツールの活用が進み、双方向授業や反転授業、フィールドワークや実習など多様な形態による授業が行われてきました。こうしたアクティブ・ラーニングの着実な展開によって、学内の学修環境の充実に資する基盤整備が進んだことはもちろん、報道機関からの問い合わせや、様々な研究会やセミナーでの成果発表の機会を得るなど、学外へもその有意義な成果が波及しています。

このAPは、当初平成30年度までの事業とされていることから (後に平成31年度までに延長)、本年度はちょうど折り返しの時期であると言えます。今後本学のAPは、アクティブ・ラーニングの全学展開に向けて新たなステージに突入いたします。もちろん、学生数1万人を超える本学のような大規模大学において、アクティブ・ラーニングを全学的に実施することは容易ではありません。昨今は、本来のアクティブ・ラーニングの表層だけを真似たような授業の氾濫も他大学において課題になっていると聞いております。言うまでもなくアクティブ・ラーニングは、その導入自体ではなく、学生の学びを促進していくことこそが目的です。こうした実質的なアクティブ・ラーニングを実現するためには、ただ教材や授業形式を変えれば良いわけではありません。そもそも学生にとって学びとは何か、そしてより良い学びを育むには、どのような取り組みが必要なのかを、我々一人一人がしっかりと理解し、意識改革を行った上で、授業実践を行っていくことが必要不可欠であると言えます。

本学ではこれまで、FDフォーラムやこのニュースレターの発行などを通して、意識の共有を図ってまいりました。今後教職員一丸となって、アクティブ・ラーニングの全学展開を目指していきたいと考えています。

